

平成 30 年度 第 2 回 歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日時 平成 31 年 3 月 6 日（水）13 時 30 分から
2. 場所 市役所 1 号館 14 階 大会議室
3. 出席者（50 音順）
天野会長、足立委員、伊藤清彦委員、上原委員、置塩委員、北委員、神原委員、
小林委員、竹信委員、土居委員（代理）、時岡委員、成田委員、服部委員、広瀬委員、
安井委員
（欠席者 伊藤篤委員、津田委員、西委員）

4. 議事次第

議題

- (1) オーラルフレイル対策事業について
- (2) 地域での障害者歯科診療の取り組みについて
- (3) 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）について

報告

- (1) 市民 PHR について
- (2) 神戸市母子保健事業検討委員会について
- (3) 神戸市学校歯科研修会の実績報告など
- (4) 口腔がん検診について
- (5) 訪問口腔ケアについて
- (6) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」の啓発について

5. 議事

議題

(1) オーラルフレイル対策事業について

事務局：資料 2 「神戸市オーラルフレイル対策事業」について説明。

目標としては、口の周りの「ささいな衰え」に早く気づき、改善することで、フレイルを予防し、健康寿命につなげていくことを掲げている。

平成 30 年度は、啓発と研修事業を実施した。

平成 31 年度のオーラルフレイルチェック事業の予定は、データを集積することで、32 年度以降の実施をめざして、地域の歯科医院で、オーラルフレイルチェック事業実施に向けた体制づくりを検討していきたい。

平成 30 年度のオーラルフレイル対策事業は、1 つ目の啓発事業としては、歯科医師会実施分として各区イベント等で 6 回、歯科衛生士会実施分として看護フェア等で 2 回実施していただいた。さらに、2 つ目の研修事業としては、10 月末に、足立先生の講演および実習を、神戸市で 1 回、歯科衛生士会で 1 回併せて 2 回開催した。平成 31 年 1 月の広報紙と、国保の医療費通知に啓発記事を掲載した。また、「機器に関するアンケート結果」を行った。

平成 31 年度は、啓発事業としては、今年度同様、歯科医師会・歯科衛生士会の各イベント等での実施を予定している。オーラルフレイルチェック事業は、今年度薬局でのフレイルチェックを受けた 65・66 歳の方を個別案内で、9 区 10 箇所各種機器を用いたチェックを行い、データの蓄積をする。口腔衛生状態、口腔乾燥、滑舌チェック、舌圧計、グルコセンサーなど機器を使ったチェックを検討中。別に、全市の一般成人を対象に、広報紙で募集して、神戸市歯科医師会附属歯科診療所において実施予定である。研修事業としては、今年 5 月頃、歯科医師会で実施予定である。

会 長：「フレイル（虚弱）」という言葉も、大分市民権を得てきたように思う。

委 員：市民にはまだまだ周知できていない部分があると思う。また、他職種の方も、フレイルは何となく分かっても、オーラルフレイルはよく分からないと思う。身体が虚弱になって、要介護や寝たきりになっていく部分があり、フレイルを早く見つけて予防していくことが必要である。フレイルになっていく原因の一つに、口腔崩壊でうまくかめず、低栄養となり、そのままフレイルに進んでいく人がいるので、口の方も予防が必要である。

患者を診ていて、口の中を治療したら、すごく元気になった方がいる。しかし、フレイルに陥ると、引きこもって外にでなくなりがちなので、身なりをかまわない方が多い。そこで、口に興味を持ってもらうには、外にでることで、口や身なりに気をつけるようになり、受療行動につなげていくことが大切で、市民に対し、皆さんが声がけをしてほしい。

会 長：1970 年代に「むし歯の洪水」というのがあり、子どもが対象であったが、今は高齢者が「むし歯の洪水」と「歯周病の嵐」でもがいている。フレイルにも気をつけて口のリテラシーがもっと市民権を得るようになればよいと思う。

委 員：兵庫県の事業として、運動、栄養に口腔をプラスした「歯と食から始める健康寿命延伸プロジェクト」として、「おいしく食べてストップ・フレイル」という、モデル事業を平成 30 年度に行った。これは、高齢者の地域における通いの場、ここでは「いきいき百歳体操」等行っているが、昼食会で配食されたお弁当を食べながら、栄養や噛むなどの口の話もする。「かみかみ百歳体操」というのもあるので、そちらの紹介も含め、身体、運動、栄養・口の 3 つをプラスした取り組みをしている。

モデル事業として、3 か所で実施したが、好評であったので、今年度は、これらのマニュアルをまとめ、行政に配布する予定である。

委 員：生活支援や生活の質の向上のためには、噛んで食べられることは大事なので、日本歯科医師会では、管理栄養士との連携を考えており、兵庫県も考えている。多職種連携の中で、栄養士会との連携は重要になってくると思うが、神戸市では、対策事業の中で、考えているのか。

事務局：市のオーラルフレイル対策としては、口が健康で、口から栄養を摂取できることが非常に重要なので、きちんと噛める歯であるか、歯が残っているか等をチェッ

クし、しっかり栄養がとれるように、かかりつけ歯科医への受診を勧めるような取り組みを、実施する予定である。その後については、今後検討していく。まず、口から栄養がしっかり取れることを目標に、歯科医師会と協力していきたい。

事務局：介護予防として、昨年10月から、フレイル改善通所サービス、フレイル改善のための支援事業を開始している。無関心層にも関心を持ってもらうために、社会参加、運動、栄養、これら3本柱を含めたフレイル対策についての啓発とともに、栄養の中には、口腔と食を入れ、食べるためには、歯や口の健康が大事ということで、フレイル状態に陥りかけている方には、専門のディサービスにつなげて、元気になってもらうような事業を展開している。他の集いの場においても、この3本柱についての講話を、県栄養士会、県歯科衛生士会との協力のもと、実施している。

委員：フレイル対策ではないが、神戸市では、各区のあんすこ（センター）単位で独居老人にふれあい給食をしており、その中に歯科が関わって、Health Related QOL（健康に関連した生活の質）の向上を目指して活動している。

委員：オーラルフレイルチェック事業の、1人あたりの所要時間はどれ位か。

事務局：大体関心の高い方が来所すると思われるが、問診含め、概ね20～30分程度と考えている。

委員：リテラシーがない人が口の中が悪くなっていくとしたら、このリテラシーの醸成は、子どもの時からと思う。今後は、口腔機能発達不全の子ども達も視野に入れ、将来的には、子どもから年寄りまで、いわゆるライフコースのアプローチが、このフレイルに対しても必要ではないか。次年度以降、視野に入れていただければと思う。

委員：本日の資料に、兵庫県歯科医師会作成の「歯の生え方にあわせたワンポイントアドバイス」というパンフレットをつけている。4か月児健診の案内時に配布予定である。

近年、食べる機能や行動は、子どもの発達とともに自然に獲得するのではなく、学習により獲得することが分かってきた。食べる機能は離乳食期に、手と口の協調運動を学習することで備わり、口腔機能の発達は、全身の発達と密接に関係している。以前のリーフレットは月齢で考えていたが、これは、歯のはえ方や子どもの発達に合わせて、離乳食の与え方やポイント、ブラッシングなどについて記載している。月齢だけで進めると、歯のはえ方が遅い子どもがうまくかめず、丸呑みなどの不適切な嚥下機能を獲得してしまうことが考えられる。

会長：幼稚園などでは、半数以上で、口が開いている「ぼかん口」の子がいる。食べる学習が不十分といわれており、子どもの口を育てることも大事になってくる。

（2）地域での障害者歯科診療の取り組みについて

事務局：資料3「地域での障害者歯科診療の取り組み」について説明。

神戸市の障害者歯科診療は、こうべ市歯科センター、西市民病院が中心に担って

きたが、本人及び保護者の高齢化に伴い、地域での診療の要望が増えた。それを踏まえ、市歯科医師会が会員に対し、障害者受け入れ可能歯科診療所の登録をお願いし、114 機関が登録を希望した。今後、市歯科医師会がホームページに掲載するとともに、市障害福祉のページからリンクできるように考えている。

委員：障害者の高齢化が進んでおり、歯科センターは長田で、やや地の利が悪く、地域での受け入れ希望が多くなってきた。今、ホームページへの記載内容を検討している。今後、研修会を実施して会員のレベルアップに努めていく。治療が困難な場合は、こうべ歯科センターで治療し、メンテナンスを地域でという形も考えている。

会長：各区それなりの数の歯科医院が登録しており、障害者には心強いが、障害者の診療はなかなか大変と思う。

委員：これは、通院患者が対象か。障害者は、在宅診療が必要な方が多いと思うが。

委員：今回は、通院を考えている。将来もっと高齢化が進んで、訪問で対応せざるを得ない場合には、訪問となると思う。

(3) 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）について

事務局：資料4「平成31年度歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）」について説明。

今年度と同様に、検討会3回、懇話会2回を計画している。ご協力お願いしたい。

報告

(1) 市民PHRについて

事務局：資料5「市民PHR」について説明。

4月1日にリリースすることになった神戸市の健康アプリ、「MY CONDITION KOBE」について実際のアプリ画面で説明。(スマートフォンより)

最初に自分の情報を登録し、コースを設定する。設定コースは1個のみ選択可能である。コースを選ぶと、自動的に様々な情報を提供してくれる。また、歩数など目標を達成すると健康ポイントが付き、プレゼントの応募が可能となる。食事の写真を送ると、アドバイスが届く。コンテンツ配信の機能もあり、写真と資料を提供すれば、週に3枠、パブリック枠というのを設けており、関係団体から提供された資料をこの中に載せることが可能である。先程から出ている引きこもりの方を外に連れ出すために、情報配信機能や、健康ポイント等により、社会との交流を図っていく。ソーシャルキャピタルを高めて、市民の健康増進に役立てていきたい。

委員：情報発信する枠が3つあるといわれたが、神戸市が利用者に発信する枠が3つあると言う意味か。

事務局：神戸市も含め、細かい仕切りは考えていない。公的団体が情報発信するための枠が週3枠ある。神戸市、医師会、歯科医師会等の団体から情報発信が可能。

登録者の属性を住基と突合しており、年齢、性別を絞ったターゲット配信等も可能である。

委員：2月26日の業界紙で大学と企業により、スマホの口腔内写真を撮って、歯周病のリスクをAIが検出し、歯科医院に誘導するというアプリを、2022年を目指して開発しているという記事を見た。

事務局：新しい機能は来年度以降考えており、電子お薬手帳の情報により、食事と薬との飲み合わせにアラートを出したり、介護の情報を連携させて在宅支援につなげたり、歯科では歯みがきアプリの利用など、構想は色々あり、ご意見を聞いて実走できるよう努めていく。

委員：無関心層に対し、健康を自分でコントロールするという意識をとということでは、スマホ年代、30・40代には大変良いと思う。看護協会が行う市の委託の「いきいき健康サポート事業」、介護予防など情報発信することで、他地域の方にも広がると思う。

委員：このアプリに驚いた。最初にアプリを入れるのは、非常に健康に関心の高い方と思う。そういう方は、色々見て、病院等での今までの指導に不満を持ち、トラブルがでないか危惧する。今後そのような場合の対応もお願いしたい。

(2) 神戸市母子保健事業検討委員会について

事務局：資料6「神戸市母子保健事業検討委員会」について説明。

目的は、神戸市の乳幼児健康診査事業のより円滑な運営のために設置している。平成30年度、31年度は健診の手引き及び帳票の改訂を目的としている。歯科医師会からは、低ホスファターゼ症や、口腔機能発達不全症についての項目追加の提案を受けている。

1歳6か月児健診票には、その他のところに、低ホスファターゼ症に関連して、「早期脱落」の項目を追加した。3歳児健診票は来年度に追加予定である。

委員：低ホスファターゼ症は、骨代謝異常の遺伝性の病気であるが、乳歯の早期脱落により、歯科健診で発見できるため、その他の欄に入れていただいた。なじみのない疾患なので、研修会も開催し、会員への周知・啓発に努めている。東灘区で発見されたケースは、前住所地では経過観察となっていたが、神戸市に転入後、歯科医院で病気が発見され、非常に喜ばれたとのことである。

重症例は、10万人に1人で、軽症例はもっとあるようである。

会長：早期発見により、障害が少ない状態に戻れるようである。

事務局：資料7「フッ化物配合歯磨き剤の使用について」について説明。

乳幼児健診時において、フッ化物配合歯磨き剤の使用等について、新しい情報を市民へ周知していくため、事業に携わる雇用歯科衛生士に対し研修を実施している。今年度からの大きな変更点は、歯磨き剤の開始時期、量、うがいの方法等となっている。乳歯が萌出した直後から切った爪程度の量ではじめる。うがいは少量の水で1回のみ等変更。

会 長：佐世保市では、市長からのトップダウンにより、全学校でフッ化物洗口を実施しているとのことである。フッ素は本当にむし歯予防に効くので、1,500ppmのフッ化物配合歯磨剤も発売された。

委 員：この内容で、実際に乳幼児健診で指導を実施しているのか。

事務局：集団、個別指導等色々な形で対応し、説明をするようにしている。保護者は様々な考えをお持ちなので、決して強制的にならないように気をつけている。

委 員：以前に比べると、フッ化物配合歯磨剤の開始時期が、随分早くなったように思うが、保護者は割と理解しているのか、それとも拒否反応の方が多いのか。

事務局：拒否反応をされる方はいる。以前は歯磨剤の量は多量につけず、しっかり歯ブラシをするというような指導もあったが、指導内容は時代によって色々変わっている。基本的な情報として、専門職として知っておく必要があるということで、指導している。いろんな保護者がいるので、強制はせず、その方に応じて話をしている。特に集団指導は気を遣うが、今のところ大きなトラブルはない。

委 員：厚生労働省では、「歯科口腔保健の推進に係るう蝕対策ワーキンググループ」を開催しており、協議・検討課題としては、う蝕罹患の実際の考え方、効果的な予防対策、次期う蝕関連目標、う蝕の健康格差の4つとなっている。平成30年9月から今までに3回開催された。

2回目の検討項目の1つに、自治体によるフッ化物洗口事業があり、フッ化物洗口は高い専門性を要するので、行政歯科衛生士の雇用の充実、地域の歯科衛生士等関連団体との連携強化、誤解のない適切な情報提供のための学会のバックアップが必要などの意見があった。

我々も、フッ化物洗口推進の立場だが、推進できていない状況である。昨日、教育委員会、保健福祉局、歯科医師会学校歯科保健委員会で、フッ化物応用について考える検討会を開催した。京都市でもトップダウンでの指示であったが、校長先生の反対等があつて、実際の開始までに3年かかったとのことである。神戸市も色々検討したが、予算の問題等もあり、フッ化物洗口は安価で効果的であるが、すぐの実施とはいかない。まずは、保護者への啓発として、フッ化物の有効性等についてのリーフレットの配布について、協議した。

委 員：フッ化物配合歯磨剤について、6か月から2歳未満の子ども、仕上げ磨きに保護者が行う場合、その後は吐き出させるのか、そのまま置くのか。

事務局：うがい可能ならば吐き出させて、そうでなければ、拭き取りを指導している。

(3) 神戸市学校歯科保健研修会の実施報告など

事務局：資料8「神戸市学校歯科保健研修会の実績報告など」について説明。

平成30年度の取り組みとして、「神戸市歯科保健研修会」と「フッ化物洗口についての意見交換会」について報告する。

委 員：講師として話をした。フッ化物がう蝕予防に効果があるというのは、歯科で数少ないエビデンスの1つだと思うが、誤解も多いので、少しでも新しい情報を

発信できたのであれば良かったと思う。

委員：校長会では、フッ化物のエビデンスは十分理解しているとのことであるが、ある学校の歯科健康教育後の養護教諭へのアンケートで、「来年度からフッ化物の話は入れないでほしい」との記載があったとのことである。現場の理解が徹底されるように、啓発等が必要ではないか。フッ化物の応用は子どもから高齢者まで、生涯を通じて適用する項目だと思うので、情報をカットしてしまうことのないよう、教育委員会の取り組みをお願いしたい。

事務局：フッ化物の有効性と導入は別のことであると、教員に研修していきたい。

委員：この会では、以前から何回もフッ化物洗口の話が出ており、有効性は分かっているが現場では拒否反応があるということで、神戸市は遅れていると思っている。もう少し教育委員会がしっかりしてもらいたい。佐世保市で出来て、神戸市で出来ないことはないと思う。久元市長から言えばよい。

会長：京都市も市長からの指示か。

委員：佐世保と同じである。

会長：京都市が出来るのなら、神戸市も出来るのではないか。

委員：フッ化物洗口は幼稚園では導入されている。教育的効果がある小・中学校でその教育すら否定する教員がいることは問題ではないか。

(4) 口腔がん検診について

委員：資料9「口腔がん検診について」説明。

今、非常にマスコミを盛り上げている口腔がんであるが、中央市民病院と歯科医師会のご協力で、実施している。広報紙に有料広告も掲載した。また、会員向け研修会を2月に開催した。中央市民病院より、口腔がん、粘膜疾患について、神戸大学からは、口腔がんの治療についてお話され、49名が参加された

委員：研修会は、芸能人のニュースの翌日というタイミングで実施した。主に検診の妥当性について話をし、検診によって利益を受ける人は1,000人に1人ぐらいなので、他の999人に不利益があってはならないというスタンスが必要である。口腔がん検診は、視診とベルスコープ[®]なので、受診者に著しい不利益（被爆など）は極めて少ない。今後の問題としては、特定の定点検診ではなく、一般の歯科医院で平常時から網羅的に診て行くことが効果的であると思う。そのため研修会を定期的で開催し、検診の目を広げていく必要がある。

(5) 訪問口腔ケアについて

委員：資料10「訪問口腔ケアについて」説明。

市歯科医師会と兵庫県歯科衛生士会との共同事業で行っている。実施数は順調に伸びてきているが、市民、医療・介護関係者にはなじみの薄い事業なので、分かり易いリーフレットを作成中である。また、3月10日（日）に研修会を予定している。先日、神戸市地域医療推進協議会で、ACP（アドバンス・ケア・プ

ランニング)と言う話を聞いた。どのように死を迎えるかという話だそうである。

委員：ACPは人生の最終段階における医療のあり方で、厚生労働省は、ACPを「人生会議」と言う名前をつけている。今後、高齢になってから、病気になってから、寝たきりになってからではなく、様々な場面で想定されるので、神戸市医師会でも対応について、協議を始めたばかりである。

事務局：「訪問口腔ケア事業の周知」について説明

今年度、ようやく全区での事業展開となったが、周知が不足していると考えられるので、保健センター長会、あんしんすこやかセンター連絡会、ケアマネジャー連絡会等で、説明とチラシの配布を行った。質問としては、口腔ケアの必要性、治療・ケアの内容、費用、チラシの簡素化等があった。

ACPの話があったが、歯科医師、歯科衛生士としては、「いつまでも口から食べることを支援する」となる。そこで、3月17日(日)には、「いつまでも口から食べられるを多職種で考える」という「口腔ケアに関するシンポジウム」(参考資料8)を開催するので、お声がけください。

会長：これは、歯科衛生士が訪問するのか。

委員：訪問は、歯科衛生士1人で行くので、トラブルが心配であったが、今のところ報告はない。派遣するのは研修を積んだベテラン歯科衛生士にしている。日本歯科衛生士会で、「在宅療養指導口腔機能管理」という認定制度があり、今後は、認定を取ってしっかり勉強した方に、行ってもらいたいと考えている。次年度は、兵庫県歯科衛生士会で、認定研修を実施する。

(6)「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第2次)」の啓発について

事務局：資料11「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第2次)」の啓発について説明。

会長：その他情報交換などについて

事務局：医療産業都市機構では、創薬、医療機器、再生医療の3本柱に加え、市民に身近なヘルスケアの取り組みをするヘルスサービス開発支援事業がある。産学民協働により、市民にもヘルスケア開発サポーターとして協力してもらい、ヘルスケア製品やサービスの開発をしている。

KOBE健康情報局「口の元気はからだの元気!」、4月7日(日)「元気の要は「頭・口・足」の健康から」セミナー、4月28日・29日の「078(ゼロ・ナナ・ハチ)KOBE」など紹介。

閉会(保健所長あいさつ)